
白と牙

Agrippa

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

白と牙

【Nコード】

N3087H

【作者名】

Agrippa

【あらすじ】

小説を書くのも初めてなので、暇だったら読んでください。

プロローグ

僕は助けを求めている

必死に足掻いてそれでも何も変わらなかった

何もかも捨てて僕は足掻いた

そして僕は”純白の闇”に飲まれていった

プロローグ（後書き）

読んでいただきありがとうございます

第一話（前書き）

先に謝っておきます　こんなの書いてすみませんでした。

第一話

「・・・僕は神を恨むよ」

僕こと神牙^{しんが} 白^{はく}は今

人生の中で数回ぐらいの不幸に陥っていた！！

朝起きたら遅刻ギリギリで家を出たら

缶踏んで転ぶし犬に噛まれるし不良さんにも殴られた

そして結局

『ガララララ』

「まにあわなかった」

僕は見事に遅刻した。

僕が通っている学園の名前は 栄^{えいてん}天学園という ある力 を学ぶ学園だ。

ある力 とは”牙”と呼ばれる力だ。

”牙”とは自分の魂の形を具現化する力で
属性は火水木金雷と光と闇に分かれている。

僕の属性は後々わかるだろう。

この学園の高等部1年の僕は
遅刻したことを先生に怒られた後トボトボとく教室に向かった。

「シロちゃんおはよう今日も遅刻だね。」

「うるさいな、仕方ないだろ。」

僕のことを

”シロちゃん”とよんだのは

風牙^{ふうが} 鈴^{りん}という女子だ

鈴は五大守護家の一つ風牙家の次期当主で

五大守護家とは

火水木金雷を司る家で

神牙家を守護する家のことだ。

「何一人でブツブツ言ってるの。」

「ん、いろいろあるのさ。」

「いろいろね。」

第一話（後書き）

いろいろです。

第二話（前書き）

昨日更新できんかった~~~~くそ~~~~こついつことも多々あるかも知れませんが、ごめんなさい

第二話

何もないただ白だけの世界
僕はまたここに来た

白いから一見明るいように見えるけど
とてもとても暗い世界

ここにいると自分が存在していることさえ
わからなくなる。

「・・・ふぁ・・・夢か

またあの夢をみるなんて。

「ん~~~~」

僕が目をごすって辺りを見回すと
なぜか女子が顔を真っ赤にして目をそらす。

「鈴、僕ってそんなに気持ち悪いかな？」
心配になったので少し顔の赤い鈴に聞いてみる。

「そ、そんな事ないんじゃないかな。」
(シロちゃん自分の容姿にきずいてないよ)

白の容姿は、身長170cmぐらい
黒髪に黒瞳の整った顔立ちで

なかなか、いやかなり美形で
かなりもてる・・・本人きずいてないが。

「そうか？」

「そうだよ。」

第二話（後書き）

今になって書きつづけることの難しさを実感しています。

第三話（前書き）

ぜんぜん投稿出来ませんでした

第三話

世界の始まりは

どこまでも続く”純白の闇”だった

そこに光が生まれ、闇ができ

火が燃え

水が流れ

木が生え

金が現れ

雷が走った。

「世界創造の書の”始まり”だね。」

「そ、この書が正しければ」

”純白の闇”さえあれば、世界が再創造できる。」

「うん、がんばろうね”明日香”」

「うん、明日菜」

「時に鈴これは何だね」

「なに、て弁当だけど？」

「弁当は食べれるものを入れるものだ」

「食べれるよ」

鈴の弁当は、
異臭を放ち

紫色だった！！

「百歩譲って黒ならコゲたとかで分かる、だがどうしたら紫になるんだ？」

「なによ、弁当を忘れたシロちゃんがいけないんですよ」

「白様お弁当をお忘れなら私のお弁当をどうぞ」

「うわ！弥生何時からそこに」

「初めから居ました」

彼女は水牙^{すいが}やよい 弥生五大守護家の水牙家の次期当主だ。

「これをどうぞ」

そう言って後ろから風呂敷を取り出した。

第三話（後書き）

すいませんことが多々あると思います

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3087h/>

白と牙

2010年10月15日01時35分発行